

行成と実方（説話集）

十訓抄

尊補（作者→行成） 過去・連用

大納言 行成 卿、 いまだ 殿上人 にて おはし ける とき、 実方 の 中将、
大納言 藤原行成卿が、 まだ 殿上人 で いらっしゃつたとき、 藤原実方の 中将が

形動・ナリ・連体

係助・疑問

過原推・けむ・連体（結び）

謙（作者→実方⇒行成）

いかなる 憤り か あり けん、 殿上 に 参り合ひ て、
どのような 憤り があつたのだろうか、 殿上の間に参上して、 行成と出くわし、

どのこと も なく、

言ふ こと も なく、

言葉を発する ことも なく、

形容・ク・連用

行成 の 冠 を 打ち落とし て、 小庭 に 投げ捨て て、

行成 の 冠 を 打ち落として、 小庭に 投げ捨てて しまつた。

動・タ行下二・連用

完了・連用 過去・終止

けり。

形容・シク・終止
打消・連用

行成 少し も 騒が ず して、 主殿司 を 召し て、
行成は 少し も 騒がずに、 主殿司をお呼びになつて、

「冠 取り て 参れ。」 とて、 冠 し て、
「冠を取つて参れ。」 と言つて、 冠をかぶつて、

動詞・サ変・連用

守刀 より 笋 抜き出だし て、 髪 かいつくろひ て、 居直り て、
守刀から 笋を抜き出して、 髪の毛を整えて、 居すまいを正して、

形動・ナリ・連体

係助・疑問 現原推・らむ・連体（結び）

いかなる こと にて 候ふ や らん。
「どのような こと で ございましょうか。

たちまちに かう ほど の 亂罰 に
突然に これ ほどの 亂暴な仕打ちを

当然・連体

係助・強意

動・ヤ下二・連用 丁寧補う変・未然(行成→実方)

打消・已然(結び)

当然・強量・未然

意志・連体(結び)

丁寧補う連体同

うけ なければならぬことは、思いも寄りません。

あづかる

べき

こと

こそ、

侍ら

ね。

そ の

ゆゑ を 承り て、のち の こと に

や 侍る

べから

ん。」と、

(突然)」のような仕打ちを 受けるようなことがございましたか。いやございません。と、

形容・シク・連用

尊敬・連用 過去・終止

こと うるはしく 言は れ

けり。

礼儀正しく おつしやつた。

実方は 拍子抜けして、 逃げてしまつた。

走り・連用 過去・終止

に けり。

実方 はしらけ て、逃げ

に けり。

折しも、 小部 より 主上

御覧じ て、

(尊敬)

ちようどそのとき、 小部から天皇が御覧になつていて、

形容・シク・連体

断定・終止

「行成 はいみじき 者なり。

かく おとなしき 心 あらん と こそ 思はざりしか。」とて、

婉曲・終止

係助・強意

このように落ち着いた 心があろうとは 思いもしなかつた。」 とおつしやつて、

打消・連用 過去・き・已然(結び)

過去・連体

形容・ク・連用

そのたび 蔵人頭 空き ける に、多く の 人 を 越え て、なき

尊敬・連用 完了・連用

過去・終止

そのとき 蔵人頭が空席になつていたので、 多くの人を飛び越えて、任命なさつた。

尊敬・連用 完了・連用

過去・終止

実方 をば、中将 を 召し て、 「歌枕 見 て 参れ。」とて、

実方のほうは、 中将の官職をお取り上げなさつて、「歌枕を見て参れ。」とおつしやつて、

係助・強意

尊敬・連用 過去・連体(遊び)

陸奥守に なして ぞつかはされ 派遣なさつた。

陸奥守に

任命して

さま地で

亡くなつてしまつた。

やがて かしこ にて 失せにけり。

代名詞(二)陸奥

完了・連用 過去・終止

そのままさま地で 亡くなつてしまつた。

実方、蔵人頭に ならでやみにける を恨みて、

完了・連用 過去・連体

実方は、蔵人頭に ならないで終わつてしまつたのを 恨んで、

執とまりて、雀に なりて、

動・ラ四・連用

執着が残つて、雀となつて

殿上の 小台盤に みて、台盤を 食ひけり。 よし、人言ひけり。

過去・連体

殿上の間の 小台盤に とまつて、台盤を つついていたということを、人が言つていた。

一人は 忍に耐へざる によりて前途を失ひ、

打消・連体

一人は 忍耐することができなかつたために

将来を失い、

一人は 忍を信ずるによりて褒美にあへる たとへなり。

完了・連体

一人は 忍耐することができたことによつて

褒美にあづかつた

たとえである。

一人は 忍を信ずるによりて褒美にあへる たとへなり。

断定・終止